

令和6年度 事業報告書



事務部による窓辺の鉢植えは 心を和ませるだけでなく 活動性の向上に一役買っている
全部署がケアプランに関わり連携する『こころみ』に新たな展開を見せた一年



社会福祉法人 光風会

1. 事業の方針

◀ 光風会は、壱岐島において、高齢者を取り巻く方々や働く世代に必要とされる施設として、在り続けることを使命と受け止め 運営してまいります。 ▶

◀光の苑の基本理念▶

- ・地域の人々とともに安寧に暮らす
- ・認知症の方と共に生きる
- ・最期の時まで寄り添う

◀光の苑のケアの4本柱▶

- ・認知症ケア
- ・ターミナルケア
- ・チームケア
- ・コミュニケーション

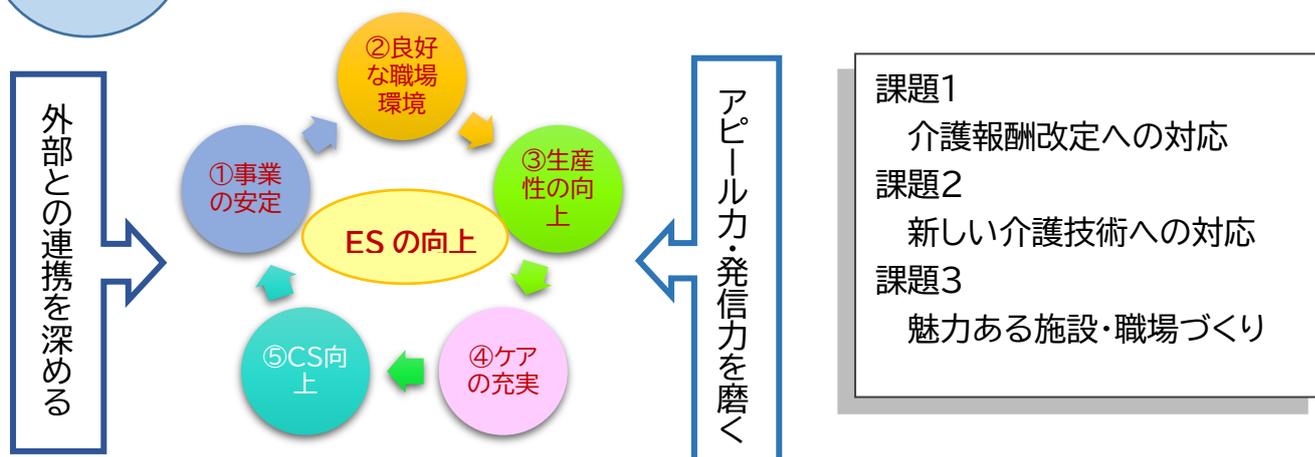
入所 定員 60名

短期入所 定員 12名

法人の所在地 長崎県壱岐市郷ノ浦町志原西触 1066-1

2. 令和6年度の事業計画目標

New and Solid Team Building
新しく、強固なチームづくり



◀ 介護報酬改定による変化に対応しながら、チーム力という強みを生かし、光の苑らしさを存分に発揮させ、新たなケアの形を模索した1年 ▶

3. 各計画内容の実施報告

1. 事業の安定

●入所事業

①入退所状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入所	1	1	3	0	0	2	0	3	1	3	0	2	16
退所	1	2	2	0	2	0	1	3	3	0	1	1	16

※入所判定会議 12回実施

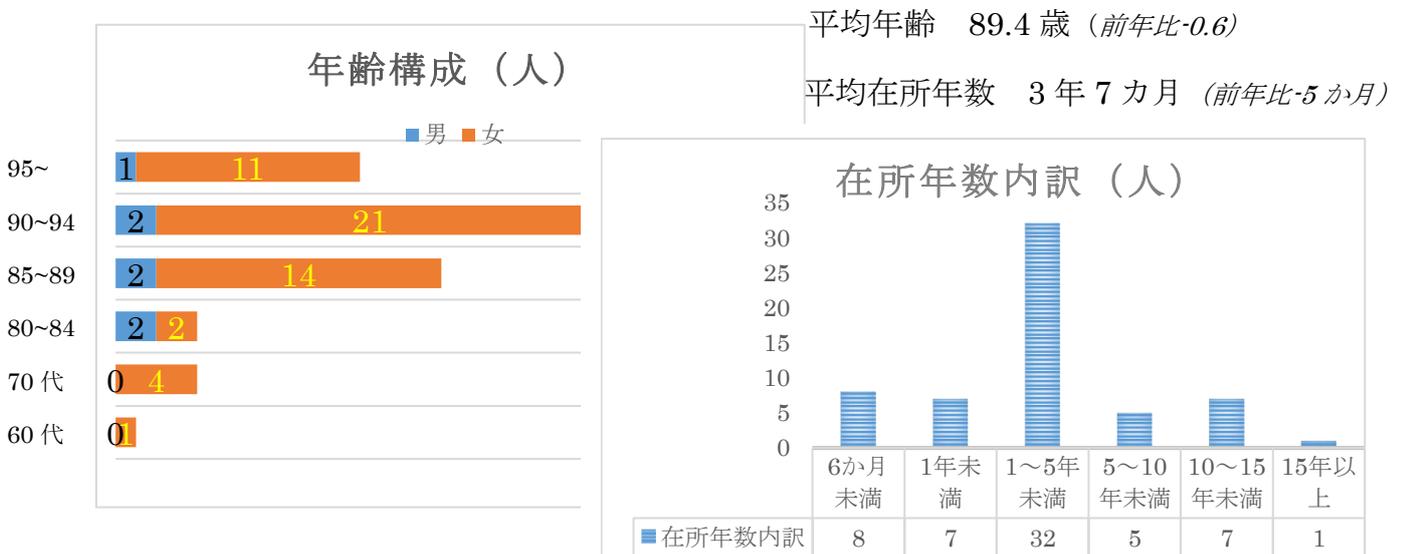
稼働率 目標 97.0% 実績 96.9% (99.2%) 前年比-1.3% (-0.2%)

単価 目標 13,700円 実績 14,058円 前年比+314円

②退所後の新規入所者の受け入れに要した日数

年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
平均日数	12.8	13.7	11.5	12.5

③入所者の状態像



④要介護度別入所状況

※平均要介護度 3.2 (前年比-0.1)

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
男	0	0	5	1	1	7
女	2	8	27	11	5	53
計	2	8	32	12	6	60

⑤年間入院日数 (入院者 22名)

年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
日数(年)	693	888	263	493

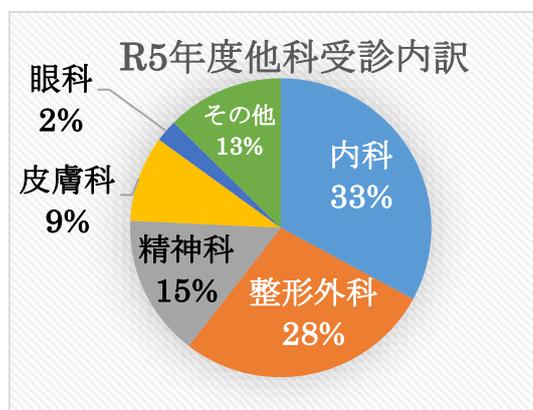
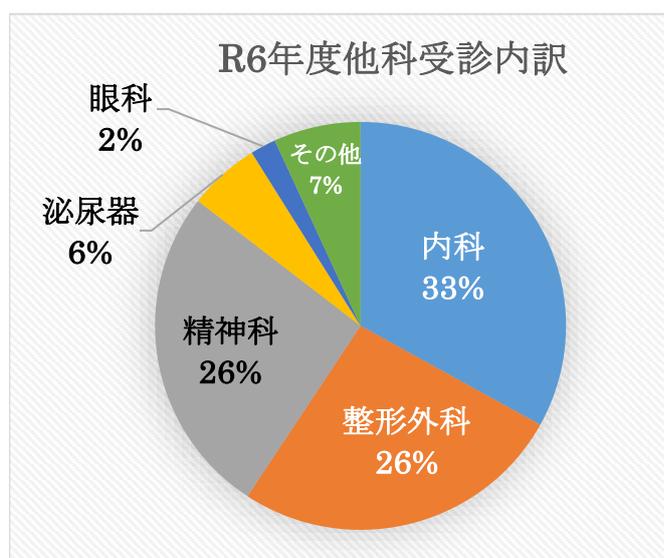


⑥年間救急搬送件数

年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
件数	26	17	11 (内入院8件)

⑦年間他科受診件数

年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
件数	234	334	248 定期受診 165件 他の受診 83件 (内入院14件)



●短期入所事業

入退所状況

平均年齢 89.4 歳 (+0.9)

平均要介護度 2.9 (-0.1)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
日数	320	321	308	309	319	301	293	314	310	252	270	224	3541
稼働率	88.9	86.3	85.6	83.1	85.8	83.6	78.8	87.2	83.3	57.7	80.4	60.2	80.8

稼働率 目標 86.0% 実績 80.8%

前年比-8.1%

単価 目標 13,800 円 実績 14,130 円

前年比+287 円

● 1. 事業の安定に関する取組み概要 ●

- 各事業の稼働率および単価の安定維持
- 新規利用者の開拓
- 入院、急変の予防と早期対応
- 協力医療機関との連携

● 2. 主な実施内容と成果 ● (関係部署)

- 入所判定上位者への早期アプローチと情報収集 (相談)
- 新たな加算算定 (相談、リハ、褥瘡委、感染委、)
- 新規入所者およびご家族との利用に関する信頼関係の構築 (相談)
- 特変者への迅速な対応 (看護)
- 感染対策による業務継続の維持 (感染対策委員会)
- ベッドマネジメントや状態像に関する情報交換 (相談、看護)

● 3. 課題 ●

- 人員確保が最重要課題であり、稼働率に大きく影響する
- 受診対応、救急搬送、入院対応への負担増
- 肺炎予防対策

● 2. 良好な職場環境 および 3. 生産性の向上 ●●

職員の動向

①入退職 (令和 6 年度分)

	フル	パート	計
入職	2	1	3
退職	3	4	7

② 職員数

(R7.3.31 現在)

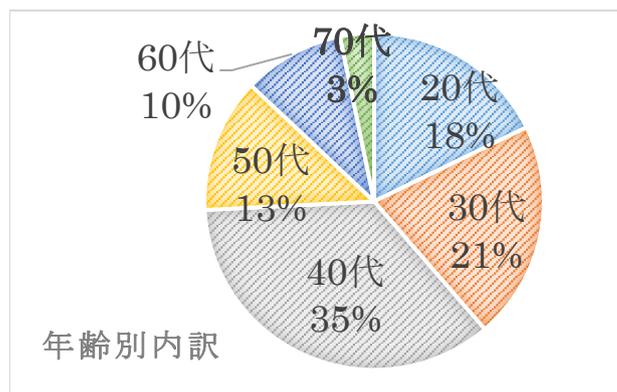
	介護	看護	キッチン	業務	相談・事務等	計
人数	35	7	7	7	6	62 (-6)
平均勤続年数	8.3	11.6	13.3	10.3	13.5	10.2 (+0.9)
平均年齢	38.3	50.6	52.3	46.5	43.3	42.7 (+1.6)

③ 働き方の実態

- ・月平均時間外労働 1.3 時間(+0.1)
- ・年間平均有休取得日 12.6 日 (-0.4)
- ・育児休業取得者 2 名 出産者 1 名
- ・介護休業取得者 1 名
- ・育児短時間勤務 3 名

④ 人材確保

- ・実習受入
- ・日本語学校からの奨学生受入れ 1 名



●● 1. 職場環境づくりと生産性向上に関する取組み概要 ●●

- 人材確保
- 業務の効率化と整理
- 生産性向上委員会の立ち上げ
- ICT 導入
- 処遇改善加算算定要件への取組
- 福利厚生
- 設備、備品の整備・更新

●● 2. 主な実施内容と成果 ●● (関係部署)

- ・各種学校へのアプローチと人材確保 (管理)
- ・実施に関する意識定着 (各部署 MTG)
- ・業務見直し案や 3M の検討 (排泄ケア委員会、介護記録システム、キッチン)
- ・試行的運営を開始 (主任会)
- ・機器の検討とデモ機の試用 (主任会、テクノエイド委員会)
- ・介護事業所認証評価制度 (N は一と) 申請
- ・機械浴槽の導入
- ・生産性向上委員会による算定要件整備
- ・有給休暇取得、育児休業取得の促進
- ・定期健康診断の充実、特定健診の実施
- ・病児保育等の費用補助
- ・屋根の防水工事完成 各種設備の更新

3. 課題

- 生産性向上委員会の本格運営 新リーダーによる課題解決能力の向上
- 各部署の課題解決、課題整理能力の育成
- 働きやすい職場づくりとチーム内の信頼関係の構築
- N は一と認証申請
- 設備更新のための準備

4. ケアの充実 および 5. 利用者満足度の向上

ケアプランの充実と利用者の機能回復

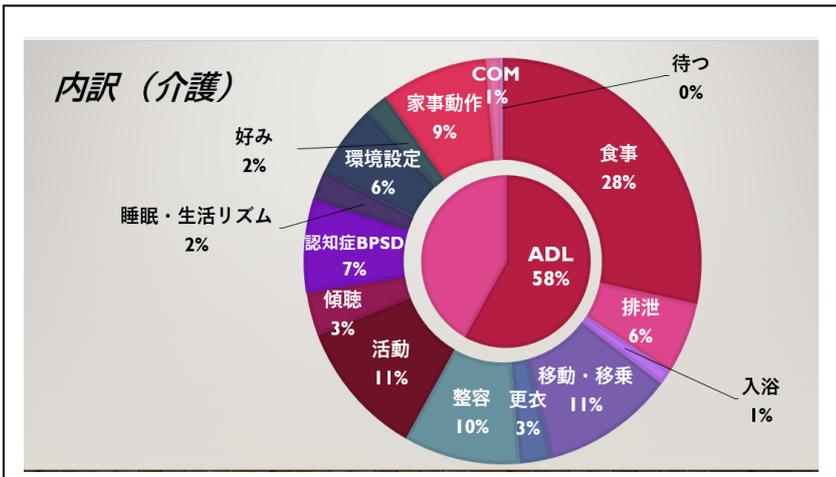
① 介護のアプローチの拡充 “こころみ” に変化

R5 年度 こころみの創設 ポストコロナで、やりたいケアを自由にできる雰囲気づくり

R6 年度 こころみの量産 こころみを数多く実施する

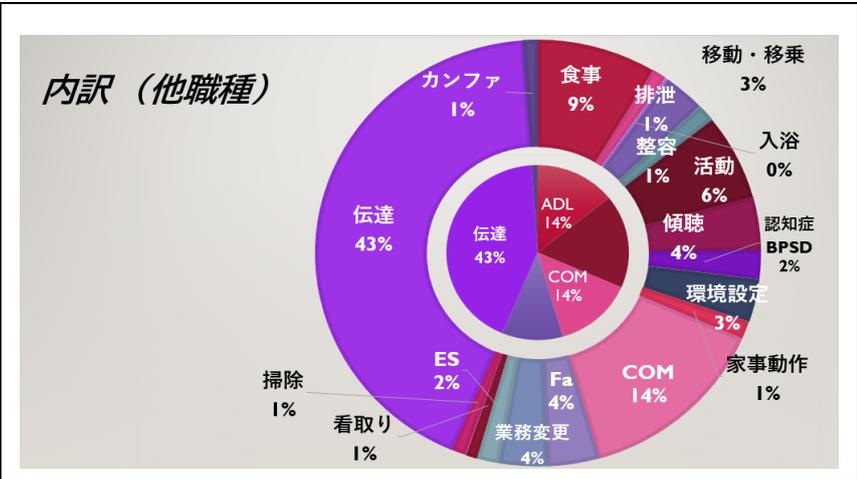
チャレンジシートより 1人 30 こころみを目標に半年間実施

こころみ総数 919 件 介護職 580 他職種 339 平均 32~37



介護職のこころみ

身体介護（ADL）へのアプローチ
食事、整容、移乗・移動
BPSD へのアプローチ
活動、家事動作、環境設定



他職種のこころみ

介護同様身体介護へのアプローチ
コミュニケーション
部署内伝達への意識
業務変更
家族対応、看取りケア、

② 利用者の ADL（日常生活活動）状況

R5 年度 平均要介護度 3.3

R6 年度 平均要介護度 3.2 要介護度が上がった利用者 5 名 下がった利用者 1 名
新規入所者 入所時より下がった利用者 1 名

③ ADL 維持加算算定基準

R5 年度 2.8 ADL 指標（BI）の数値を 6 か月後と比較。維持または改善すれば

R6 年度 3.0 数値が高く出る。利用者約 40 人の平均値。

④ 看取りケア対象者 9 名の平均要介護度 3.8

●● 1. ケアの充実と利用者満足度向上に関する取組み概要 ●●

- ころみの創設から量産へ
- オンライン医療相談の導入
- ACP に基づく看取りケアの推進
- 医療介護連携
- 利用者・ご家族との関係性の構築

●● 2. 主な実施内容と成果 ●● （関係部署）

- 利用者の ADL 維持、意欲や活動性に大きく貢献
- 精神科対応に関してケアしやすい体制に（看護）
- 看取りケア加算算定 平均 31.3 日
（相談、看護、ライフシップケア委員会）
- 退院後の早期介入 （看護、リハ）
- 日ごろの様子をお便りに添える （SK、全部署）

●● 3. 課題 ●●

- ICF に基づくアセスメント、カンファレンスの実施
- 認知症ケア研修のプログラム再編
- 精神症状の観察と情報共有

【添付資料1】委員会組織一覧 ～ 稼働率維持とADL維持の要として大きな役割を果たした。

事故・感染対策委員会	高齢者施設等感染対策向上加算～協力医療機関との連携強化 BCPに基づく業務継続の実践
課題	全委員が感染対応、事故対応できるよう対応力強化
身体的拘束適正化委員会 虐待防止委員会	身体拘束ゼロの継続。スピーチロックへの継続的アプローチ。 虐待防止に関する研修実施。
課題	認知症研修の実施
褥瘡対策委員会	褥瘡ゼロの継続。褥瘡マネジメント加算（Ⅰ）→（Ⅱ）へ 褥瘡予防の視点をADL維持や活動性向上へと広げている。
課題	褥瘡発生要因の分析力をつける。
排泄ケア委員会	排泄ケアの省力化、業務見直しの実施。利用者、職員とも負担のない排泄ケアへ舵を切る。コスト意識と、浮いた時間を本来したいケア、ご本人の生活支援へ転換。
課題	根拠あるケアアプローチ 使用するパッドの選定とスキル向上
愛食委員会	口腔衛生管理体制の整備。栄養・リハ・口腔の一体化に向けた体制整備。
課題	誤嚥性肺炎の予防とマウスケアのスキルや知識の向上
ライフシップケア委員会 (ターミナルケア委員会)	早期看取り体制づくりから、ACP（人生会議）に関する入所時からの家族やケアプランと連動した協議の場づくりを目指す。嘱託医以外の主治医との連携も求められるようになっている。
課題	ACPに関する研修とケアプランとの連携
テクノエイド委員会	見守りセンサーのデモ機使用を重ね、ICT導入の準備段階に入る。 生産性向上推進体制加算の算定準備
課題	ケア方針にそった機器導入の構想 生産性向上委員会との連携

- ・加算算定のための算定要件をクリア
- ・記録や計画のアプローチを実施。
- ・委員長・担当主任・記担当者を中心に、ニューリーダーが育成されつつある

【添付資料2】 各部署一覧

<p>総務・経理 (チーム SK)</p>	<p>家族と現場をつなぐ役割。経費削減の情報提供。現場に節約意識をもたらす以外にも、ケアプランへの参画で、SK の存在感を創出した。補助金の情報収集と獲得に関する計画を随時行う。</p>
<p>看護・リハ</p>	<p>ADL 維持等加算算定 (I) → (II) へ 精神科医師定期的療養指導加算 肺炎予防、ADL 維持向上の促進を図り、介護をサポートする。</p>
<p>キッチン</p>	<p>食材費高騰への対応をきっかけに献立の見直し実施。平均年齢 90 歳の利用者の必要所要量や摂取可能な量を粘り強く算出し、栄養面から利用者を分類し提供方法を検討中。ADL 維持をリハと協働して後押しする段階へと進む。</p>
<p>業務</p>	<p>介護関連業務として、清掃や洗濯、リネン交換を担当。感染発生時にも大きな貢献を果たしている。</p>
<p>相談</p>	<p>ICF の視点からケアプラン立案を模索中。ADL 維持だけでなく、社会参加を意識した、地域や家族を含めた内容立案できるよう検討中。</p>
<p>介護</p>	<p>こころみにより、ケアの質を意識したアプローチが徐々に広がりつつある。自信と誇りを持つまでには至らないが、少しずつ業務への向き合い方が変化しつつある。アセスメント力をつけ、プランを実施できるスキルを実感することで利用者に変化をもたらす自信づけとなることを期待。</p>

【添付資料3】 令和6年度 BCP（感染・災害）訓練および研修を含む研修実施一覧

実施	内容	実施要領	参加職種	人数
4月	採用時研修	施設内	介護	2名
	コンプライアンス研修	施設内	全職種	2名
5月	身体的拘束適正化委員会研修① 「スピーチロックまとめ」	施設内	全職種	50名
	感染対策訓練①「吐物処理訓練」	施設内	全職種	50名
	採用時研修	施設内	業務	1名
6月	虐待防止委員会研修	オンライン	介護	1名
	日本認知症ケア学会（東京）	施設外	介護・看護	3名
	ユニットリーダー研修	施設外	介護	1名
7月	高齢者権利擁護養成推進員養成研修	施設外	介護	1名
	ユニットリーダー研修	施設外	介護	1名
	事故予防対策委員会研修①AED・CPR 学習会	施設内	全職種	24名
	基礎研修	施設内	介護	3名
8月	基礎研修	施設内	介護	3名
	認知症研修	施設内	全職種	35名
	身体的拘束適正化委員会②・虐待防止委員会研修① 「身体拘束と虐待の防止」	施設内	全職種	35名
	褥瘡対策委員会研修「ICFの視点でアセスメント」	施設内	全職種	35名
9月	感染対策委員会研修会②「HCVについて」	施設内	全職種	46名
	防災訓練①「防災食訓練」	施設内	全職種	46名
	ハラスメント研修「パワハラ・カスハラ」	施設内	全職種	46名
	ユニットリーダー研修	施設外	介護	1名
10月	火災予防訓練①「夜間想定避難訓練」	施設内	全職種	51名
	感染対策訓練②「ガウンテクニック」	施設内	全職種	51名
	口腔ケア研修「誤嚥性肺炎と口腔ケア」	オンライン	介護	1名
11月	ユニットリーダー研修	施設外	介護	1名
	認知症介護実践リーダー研修	施設外	介護	1名
12月	安全運転管理者研修	オンライン	安全運転管理者	1名
	ターミナルケア研修「看取りケアをふりかえって」	施設内	全職種	36名
1月	ユニットケア研修	オンライン	栄養	1名
	虐待防止委員会研修②「虐待対応フロー」	施設内	全職種	42名
2月	火災予防訓練②「消火器・火災報知器の操作法」	施設内	全職種	48名
	テクノエイド研修「見守りシステム」	施設外	介護・総務	2名
3月	施設内学会・事例検討会	施設内	全職種	46名

3月	防災訓練②「防災と備蓄」	施設内	全職種	46名
	壱岐島医療福祉研究発表会	施設外	介護看護栄養他	5名

【各種点検実施一覧】

消防設備点検	2回／年	非常灯のLED交換等
エレベーター点検	1回／月	
電気設備点検	1回／2月	
停電点検	1回／3年	R7年実施予定
非常用発電装置定期点検	数年に1回	R7年実施予定
浄化槽点検	1回／月	膜交換20枚
受水槽点検	1回／年	
移乗用リフト定期点検	1回／年	定期的バッテリー交換 本体修理
建築設備等	1回／年	
建築物定期点検	1回／3年	R9年実施予定
医療安全器具類点検	1回／年	

ユニット内、共有部分共、空調設備の更新の必要性が出てきている。
 今後に備え積立計画を検討。

研究テーマ： 介護だからできる褥瘡予防

～ICF を用いてその人らしい生活ができるプランを考える～

発表者：長岡康仁（介護福祉士）

【目的】

光の苑では褥瘡予防のポジショニングを行う際にポイントを意識して行えてはいるが、これでいいのだろうかという悩みがあった。傷だけを見るのではない。身体的特徴だけでなく、好み、環境なども含め利用者本人を見ていくことが必要なのではないかと思い、今回 ICF を用いた褥瘡予防プランの作成に取り組んだ。

【方法】

全体ミーティングにて褥瘡委員会主催で褥瘡予防を考えるグループワークを実施。褥瘡リスクの高い利用者を対象に ICF の表を埋め、ニーズを絞ってプラン作成を行い、全体で共有した。

【結果】

グループワークを通して、ご本人のできることやニーズを考えたことで、身体的特徴だけでなく、好み、環境などについてもたくさんの意見がでた。

褥瘡に関する内容に焦点を絞ってアセスメントした結果、ICF を用いることでご本人の想いを尊重した褥瘡予防プランの作成ができた。

【結論】

生活の場である光の苑。日々関わっている介護が主体となって日常生活におけるご本人のできることやニーズを考えることは、意欲、本人らしさを損なうことなく過ごしていただくために大事だと感じている。

傷だけを見るのではなく、日常生活の中でご本人を見る、知ることが褥瘡予防につながるの
で、ICF を用いて褥瘡予防を考えることは必要である。